

各位

金蘭千里中学校

本校入学者選抜試験問題に関するお願い

昨今、教育現場における著作権の在り方が議論されています。本校も、著作権法に基づいた著作物の適切な運用と管理に取り組んでいます。

本校の入試問題の利用につきましても、下記の点にご留意いただき、適切なご利用をお願いいたします。

記

1. 本入試問題の著作権は、本校に帰属します。複製の作成は、事前に申告いただいた場合のみ許諾します。
2. 本入試問題で引用している文学作品等の第三者の著作物は、関係団体を通じて、引用の許諾申請を行っています。

以上

令和4年度中学入試

[中期B・J 入試]

国語科 問題

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子は、表紙を含めて23ページあります。
試験中に、印刷が見づらかったり、ページの乱れや抜け落ちに気づいたりした場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
3. 解答用紙は別に配布されます。解答はすべてその解答用紙に記入しなさい。
4. 問題冊子の余白等は下書きなどに利用してよろしいが、どのページも切り離してはいけません。

[中期B・J 入試] 受験番号 _____

金蘭千里中学校

① 次の【Ⅰ】・【Ⅱ】は同じ本の別の箇所を取り出したものである。この本の中で筆者は小学生たちに翻訳についての授業をおこなっている。これを読んで、後の問いに答えなさい。

【Ⅰ】

翻訳というのは、他言語を自分たちの言葉に移すこと、書き換えることだと思われているでしょう。もちろん、翻訳とは最終的には「書くこと」です。しかし翻訳するには、まず原文（他言語で書かれた文章）をよく読まなくてはなりません。訳者というのは、まず読者なのです。翻訳というのは、「深い読書」のことです。

そして、なにかを読むということは、他人と出会うことです。その本や文章を書いた自分ではないだれかと対話することなのです。時には作者あるいは登場人物とぶつかることもあり、時には一体化したように感じることもあるでしょう。他者に感情的な衝突を感じることを「反感」と言い、他者とひとつにながったような気持ちになることを「共感」と言いますね。英語では、アンチパシーとシンパシーです。こうした感情経験の豊かさは、想像力の枠を広げることにとっても役立つと思います。こうした反感や共感を経た先に、深い理解が生まれるからです。

「良い訳文を書けるようにするにはどんなことをしたらいいですか？」とか、

「翻訳文の日本語を磨くにはどうしたらいいですか？」

といった質問を最近よく受けるようになりました。これは声を大にして言いたいのですが、あなたの訳文や文章だけを良くすることはできません。日本語だけをピカピカに磨くこともできません。類語辞典などを使うのはとても良いことですが、きれいな言葉やりっぱせそうな表現を引っぱってくるだけでは、決して訳文は良くなりません。よく訳すためには、よく読めるようになること。これに尽きます。よく読めれば、よく訳せる。

翻訳とは言ってみれば、いつとき他人になることです。個人的な好き嫌いや私的な感情を乗り越えた先で、実際、相手（作者）になり代わって書く。例えば、「イシヨヒヨウ」という仕事がありますね。ある本を読んで自分なりに解釈し、その書物にどんなことが書いてあるか、本の趣旨や魅力や評価、あるいはその本の読み方を他の読者に示す文章のことです。翻訳にも似たような働きがありますが、翻訳者がシヨヒヨウ者と決定的に違うのは、その本を丸ごと自分の手で書きなおし、作者の文章を一語一句にいたるまでみずから当事者となって実体験することなのです。

翻訳とは、いったん他人になった後、最終的には自分に還ることです。

だから翻訳者は翻訳作業中、つねに他者と、他者の言葉と語りあっていることになります。

よくひとりぼっちで仕事をしていて寂しくないですか？ と聞かれます。たしかに孤独な作業ですが、いつも本のなかとそのむこうに他人の存在を感じていますから、①孤独であつても、寂しいと感じたことはありません。

ずっと好きだった。

② いいですね。いまだけではなく、過去のある時点からずっと思ってきたんだ、と。(中略)

英語の原文では、いま「愛している」ということはアピールできるけど、長いあいだ思ってきたことはわからない。

ここで「原文にはそんなこと書かれていないから、そんなふうに訳すのは悪しき(注) 意訳」だと言う人もいるでしょう。しかしそもそも日本語と英語は時間のとらえ方がまったく異なっているので、全く同じように再現するのは難しい。前後の文脈によって、文章の(注) 含意をくんで、「I Love you.」を「ずっと好きだった」と翻訳するのが、意訳とはかぎりません。

いまの場合だと、川べりを歩いてくる男性の長い沈黙は、長年の愛の重みゆえかもしれませぬ。その沈黙が「ずっと」という言葉に翻訳されて出てきたのかな。そういうのも訳し方のひとつです。

これが③ 翻訳と英文和訳とのちがいです。

翻訳というのは、「英文和訳」をこなれた日本語に書きなおしたものではありません。英文和訳をいくらす(注) センレンさせても、翻訳にはなりません。英文和訳というのは、先生からすれば学校の授業で教えたことをみんなが正確に理解できているか確かめる「(注) テスター」みたいなものですから、決まりきった4テジ(注) ユンがあり、「正確に理解していますよ」ということを示すためには、そのテジ(注) ユンを踏んでみせる必要があります。そもそも翻訳と英文和訳は、成り立ちも目的も働きもちがう別物なのです。(中略)

さて、いま例に出した場面は、じつは明治時代にある学校の「先生」が考えた問題なんです。「先生」がこの「I Love you.」をどう訳すかと生徒に問いかけて、「わたしはあなたを愛している」といった答えが返ってきたら、こういうふうに訳しなさいと言ったとされています。

今夜は月がきれいですね。

これ、「I Love you.」という意味だつてわかるでしょうか？

現代だとちよつと遠回しすぎて伝わらないかもしれませぬ。

でも、明治時代には、まだ愛とか恋とか(注) かいいう言葉は、日常的には使われていなかった。そんな(注) 大仰な言葉をふだんの会話で使うのも変だし、だいたい男女が「愛してる」と言いあう習慣が日本にはありませんでした。いまもあまりないかな？ みんなの家では家族同士がぶつうに「愛してるよ」と言いあっていますか。そう、「言いあう習慣」がなかっただけでなく、昔は英語の「Love」にあたる考え方じたいが日本語にはなかったのです。愛という字は、例えば奈良時代にはもう中国から入ってきていましたが、いまで言う「Love」のような意味では使われていなかった。現代のような意味で使われたのは、キリスト教の聖書が英語から本格的に翻訳されるようになった5ジ(注) プン(注) だときられています。いまわたしたちが使っている「愛」という言葉は、西洋の言葉からの(注) 翻訳語で、明治時代には日常語ではありませんでした。

ですから、男が女に好意を伝えるときには、「今夜は月がきれいですね」ぐらいに言っておくのが粋であると、そう考えられたのでしょう。学生にそう教えたときとされているのは、④明治時代の作家・夏目漱石です。『吾輩は猫である』や『坊っちゃん』といった小説を書いた大作家ですね。

それでは、もうひとつ、明治時代の翻訳から例を出します。『ロミオとジュリエット』という作品がありますね。十六世紀にイギリスの文豪（A）が書いた戯曲、つまりお芝居です。そこに出てくる、「I Love thee. (theeはyouの古い形)」です。これが、ある翻訳では、

かわゆい。

かわゆく思う。

などと訳されています。『小説神髓』という本を書いたことで有名な坪内逍遙という人の翻訳です。いま聞くと、なんだか「えっ？」って感じでしょう。「かわゆし」はもともと（注）大和言葉の「かわはゆし（顔映ゆし）」から来ていて、「可愛」という漢語（漢字）をあてるようになったのは中世後半（室町時代ごろ）です。

現代の日本語でいう「カワイイ」といふ（注）ニュアンスがちがいますね。Kawaiiってローマ字で書いたら、これはいまや世界の共通語なんです。英語のなかにも借用されていて、『オックスフォード・イングリッシュ・ディクショナリー』という権威ある辞書にも見出し語として入っているぐらいで、カラオケ、スシ、ツナミなどと同じで、外国のけっこうな範囲でそのまま通じる国際語です。もとは外来の字をあっていた言葉が、また日本から外に出ていき、いまや世界共通語です。言語の移り変わりというのは、おもしろいものです。

では、次は、こういうシチュエーションではどうでしょう。

ある野球チームが優勝しました。その勝利者インタビューで、外国人選手が出てきて、「これからの抱負はなんですか」などと聞かれ、最後に、「じゃあ、チームのみなさんに、ひと言お願いします」と言われて、「I Love you, all.」と言ったんです。

これは、どんなふうに訳したらいいでしょう。

ジュン「僕は君たちに感謝してる」

感謝してる、ありがとうという気持ちですね。とても感じが出ています。こういうときは「みんな、あいしてるよ！」と訳してももちろん良いんですが（忌野清志郎というロックミュージシャンは「あいしあってるかーい」を決めぜりふにしていました）、実際に通訳がなんと訳したかというところ。

みんな、がんばって行こうぜ！

でした。わたしはこれ、⑤名訳だなと思いました。

では最後に、わたしの翻訳体験。

あるとき、十五歳と二十歳ぐらいのアメリカ人の兄弟がいて、お兄さんがベトナム戦争に出兵していく。その時の別れの言葉として、「I love you, brother, I love you, brother,」って弟が叫ぶ場面がありました。これはなんて訳したらいいでしょう。

みんなはお兄さん、お姉さんにいつも「I love you,」って言ってますか？ そう、「お兄ちゃん、愛してるよ」でもいいんですよ。でもほかにも訳し方はあるかな？

リョウタ「僕はお兄ちゃんの無事を祈ってるよ」

うん、「love」ってそういうことですよ。相手を気づかうこと、いたわること、思いやること、祈ること、それが「love」だと思う。良い訳だと思います。

さて、わたしはどうしたかっていうと、

兄貴、（B）

と訳しました。でも、結局、このお兄さんは、ベトナム戦争で死んでしまうだけだね。

こういうふうには、「I love you,」だけでも、「月がきれいですね」になったり、「かわゆい」になったり、「がんばって行こう」になったり、「（B）」になったりするんですね。

（中略）

訳文というのは、ひとつの言葉、ひとつの文章のどこをどう見てどう表現するかによって、無数に姿を変えることがわかってもらえるかと思えます。

そして、⑥表現の方法が変われば、それを読んだ人にもたらす印象も変わってきます。

(中略)

わたしたちが発する言葉というのは、ひとつひとつにその人独自の解釈が交じっています。言葉を使って話したり書いたりするのは、その「解釈」ごとくに伝えること、だれかと言葉を交わすというのは、他者と「解釈」をやりとりすることなんです。

これはまさに翻訳にもあてはまることです。

(鴻巣友季子『翻訳教室 はじめの一步』より 一部改めたところがある)

(注1) 脈絡：物事のつながり、すじ道。

(注2) 意訳：原文一語一語の意味にとらわれないで、全体の意味に重点を置いて訳すこと。

(注3) 含意：表面にあらわれた意味の背後にある意味。

(注4) テスター：試験・検査をするための道具。

(注5) 大仰な：おおげさな。

(注6) 大和言葉：外来の語に対して日本本来のものと考えられる言葉。

(注7) ニュアンス：言葉の微妙な色合い・特色。

(一) 波線部 1～5 のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 ショヒヨウ
- 2 ホウゲン
- 3 センレン
- 4 テジュン
- 5 ジブン

(二) 傍線部①「孤独であつても、寂しいと感じたことはありません」とあるが、筆者がこのようにいうのはなぜか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ひとりぼっちの作業で、だれも自分に気づいてくれないが、きっと報われると信じているから。
- イ ひとりぼっちの作業ではあるが、いつも他者や、他者の言葉と語りあっていると感じているから。
- ウ ひとりぼっちの作業のように見えるが、本の中の人がそばにいてずっと励ましてくれていたから。
- エ ひとりぼっちの作業に慣れているので、近くにいた人と語り合うことが必要だと感じたことがないから。

(三) 傍線部②「いいですね」とあるが、筆者はどういう点を「いい」と考えているのか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 原文には書かれていないが、前後の流れから文章の意味をくみとって、ずっと好きだったと訳した点。
- イ 原文では省略されているが、そうであってほしいという願いをこめて、ずっと好きだったと訳した点。
- ウ 原文の後の部分に出てくるずっと好きだったという内容を、わかりやすさを重視して、順序を入れかえて訳した点。
- エ 原文ではあえてふれないでいる内容を、時間のとらえ方の違いを考えて、ずっと好きだったと訳した点。

(四) 傍線部③「翻訳と英文和訳とのちがいは」とあるが、翻訳と英文和訳は何がちがうのか。その説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 英文をそこに使われている英語に忠実に「私はあなたを愛している」のように日本語に置き換えていく英文和訳とはちがひ、翻訳は意味のわかる文章にしていくための多少の変更は許されている、ということ。
- イ 英文をそこに使われている英語に忠実に「私はあなたを愛している」のように日本語に置き換えていく英文和訳とはちがひ、翻訳はおもしろくするためなら話を大きく変えてしまうこともある、ということ。
- ウ 英文をそこに使われている英語に忠実に「私はあなたを愛している」のように日本語に置き換えていく英文和訳とはちがひ、翻訳は文章のかくされた意味を読み取って付け加えることもある、ということ。
- エ 英文をそこに使われている英語に忠実に「私はあなたを愛している」のように日本語に置き換えていく英文和訳とはちがひ、翻訳は学校で教わることにとらわれずに自由に訳していくものだ、ということ。

(五) 傍線部④「明治時代の作家・夏目漱石」の作品ではないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 草枕 イ 三四郎 ウ こころ エ 蜘蛛の糸

(六) (A) に入る「イギリスの大文豪」の名前を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア コナン・ドイル イ ルイス・キャロル ウ J・K・ローリング エ ウィリアム・シェイクスピア

(七) 傍線部⑤「名訳だと思いました」とあるが、筆者がこう思ったのはなぜだと考えられるか。【I】の文章に書かれていることを手がかりにして、次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 通訳がその外国人選手に対する反感を感じながらも、ガマンして口にした言葉だから。

イ 通訳がその外国人選手と相談して、質問に適した答えと判断して口にした言葉だから。

ウ 通訳がそこにいない外国人選手の代わりとして、その選手のふりをして言った言葉だから。

エ 通訳がその外国人選手を深く理解したうえで、その選手になり代わって発した言葉だから。

(八) 二か所ある (B) に入る言葉として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア がんばって戦ってくるんだぞ。

イ もう会えなくなるんだね。

ウ だれよりも好きだぞ。

エ 死ぬんじゃないぞ。

(九) 傍線部⑥「表現の方法が変われば、それを読んだ人にもたらす印象も変わってきます」とあるが、「表現の方法」がちがうことで「印象が変わる」ことについて、筆者は次の文章にある例をあげている。これを読んで、「おもちゃ」という言葉を聞いたときの「印象」の組み合わせとして最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

木で作られた象ぞうがあるとき、それが「おもちゃ」と言われた時と「にせもの」と言われた時では、心に浮うかぶ光景やイメージは変わってくるはず。光景やイメージが変わると、それがたとえ同じ物でもまったくちがう意味をもつことになる。それが「おもちゃ」と聞いた人は「楽しいもの」とプラスに解釈するかもしれない。「にせもの」と聞いた人は「良くないもの」とマイナスに解釈するかもしれない。

言葉が物のほうを変えているともいえます。

それを聞いた人が次に伝える時には、「娯楽ごらく」として話すかもしれないし、「詐欺かぎ」みたいな意味で話すかもしれない。おちがいですね。

- | | | |
|---|--------|----|
| ア | 楽しいもの | 詐欺 |
| イ | 良くないもの | 娯楽 |
| ウ | 楽しいもの | 娯楽 |
| エ | 良くないもの | 詐欺 |

(十)【II】の文章を筆者はどのように書き進めているか。その説明として最も適切なものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「I Love you.」のいろいろな訳し方について、まず子どもたちにたずね、そののち昔の有名な人の訳し方を紹介し、そこにあげた例から言葉というものの不思議について触れたのち、テレビで見かける例を引き、最後に戦争についての話を述べている。

イ 「I Love you.」のいろいろな訳し方について、まず子どもたちに訳してもらい、そののち日本とイギリス、二つの国での翻訳の例を紹介し、そこにあげた例から言葉の歴史について触れたのち、身近にある例を引き、最後に翻訳が相手をいたわる気持ちを大切にしていることを述べている。

ウ 「I Love you.」にいろいろな訳し方があるということ子どもたちに教え、そののち、実際の訳し方として古い時代の例を紹介し、そこにあげた例から言葉とは何かについて触れたのち、外国人選手の例を引き、最後に外国人の兄弟の悲しい実話を述べている。

エ 「I Love you.」のいろいろな訳し方について、まず子どもたちに問いかけ、そののち明治時代のいろいろな訳し方を紹介し、そこにあげた例から言葉の移り変わりについて触れたのち、現代の野球での例を引き、最後に自分の翻訳での経験を述べている。

(十一) 本文に書かれていることと一致しているものを次のア～クの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 翻訳をするにあたっては、翻訳者は原文をよく読まなければならず、その意味で翻訳とは深い読書のことであるといえる。

イ 良い訳文を書くためには、類語辞典を使って自分の中の言葉の数を増やしたり、経験を積んで自分を磨いたりすることが大切である。翻訳者には反感や共感を経た先に生まれる想像力が欠かせないので、翻訳した作品の方がもとの作品よりすぐれたものになることもある。

エ 筆者のおこなった翻訳教室は英語に全くふれたことのない子どもたちに対して、英語のおもしろさを伝えるところから始まった。

オ 現在の日本語には「love」にあたる言葉はたくさんあるが、明治時代には少なく、「愛」とか「恋」という文字すら伝わっていないかった。

カ 偉大な作家として知られている夏目漱石も、「小説神髓」を書いたことで有名な坪内逍遙も、学校で英語の先生をしていたことがある。

キ 同じ文章であっても、場面や状況のちがいや、見かた、表現の仕方の違いによって、訳文というものは無限に形をかえていく。私たちが発する言葉には解釈が交じってしまうので、読んだり聞いたりする相手に誤解を与えないようにしなければならぬ。

②主人公のトビー一家は最近都会のアパートからテニスコートのある、郊外の大きな一軒家に引っ越してきた。お隣のパターソン家とはよくテニスをやる間柄である。トビーは高校一年生で、テニス好きの父親がむりやりテニスをさせようとするのに反発して、テニスから遠ざかっていた。ところが、庭のコートで幽霊からテニスの特訓を受けるようになり、テニスの面白さに目覚め、めきめきと腕を上げて学校のテニスチームの最年少メンバーに選ばれた。幽霊とトビーはコンピュータの画面上で言葉のやりとりができる。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

父さんはかっかしていた。

「まったく、どうかしているよ！自分の息子がテニスチームのスターだってことを、おとなりのパターソンさんから聞かなきやならないなんて！」

「スターなんかじゃないよ。」ぼくはいった。

「じまんにも思ってもいけないんだな？」

あんまり機嫌がわるいので、とてもじまんに思っているようには聞こえなかった。

母さんはあとになって、①とがめるようにぼくにいった。

「父さんはただ、あなたの役に立ちたいと思っただけなのよ。トビー。つまり、父さんがどれだけテニスが好きか、あなたもわかっているでしょ。」

ぼくは心の中で思った。つまり、父さんがどれだけ勝つことが好きかわかってるでしょ、だろ。でも口にはださなかった。その必要もなかった。それから十日もたたないうちに、ある土曜日、家のコートで父さんと母さんがパターソン家を打ち負かした。そのあと父さんは、家にいたぼくに試合しないかとさそった。

「いじゅくダイしてるんだ、父さん。」

父さんは、外からぼくの部屋の窓にむかってさげんでいた。

「あとでやればいいじゃないか。こいよ、トビー、一時間休憩しろよ。パターソンさんのために。三セットだけ。どれほどまいか見せてくれよ。それともまけるのがこわいのか？」

ぼくはため息をついて、コンピュータをとじた。画面が暗くなる前の一瞬、ことばが一行、画面に光った。

「ヤッチマエヤッチマエヤッチマエ。」

そして終了した。

凶暴なかりのことばだった。ぼくはふるえながらラケットをとり、父さんと試合するために外に出た。

それは、きつい試合だった。最初のセットは、全力をあげてほんとうにいいプレーをした父さんが取った。二セット目はぼくが取った。父

さんはぼくよりも三十も年上だし、午前中にもうすでに(注2)ダブルスで(注3)フルセットやっていたわけだからね。三セット目、父さんはかつかとして反撃に出たけど、ぼくだって同じだった。

心の中で、目に見えないぼくのコーチがぼくにわあわあさけんでいたし、ぼくの(注4)アドレナリンも思いっきり上昇して、なんとか勝とうとぼくをかりたてた。

だけど、最後の瞬間、ぼくは父さんのゆがんだ顔を見た。必死でがんばっている苦しそうな顔で、たぶんぼくも同じような顔してる、と思つたら、突然すごいやになつた。すべてのことが、競争が、ほかのだれよりも上手になりたいという欲望が。ぼくは、父さんのように勝つことにこだわりなくなつた。それでサーブのとき、ボールのあらあらしさが消えるほど力がぬけて、父さんがそのポイントを取り、ゲームを終えた。

父さんは喜んでいた、もちろん、息をきらし、あせだらけだったけど、ぼくの方へ走ってきて、なんとネットをとびこえた。まるで、(注5)ウインブルドンの勝利者かなんかみたい。

「すごいゲームだったな、トビー。」父さんはいった。それから腕をぼくの肩にまわした。「練習つづけるんだぞ、そうすればいつか、おまえも(注6)おやじと同じくらいうまくなるからな。」

ぼくは、母さんがそれを聞いて思わずからだを固くしたのを見た。母さんは、父さんがバターソン家に2週間ぶくされながらにこのことうれしそうにいつてしまうまで待つて、そばにくるとぼくをぐつとだきしめた。母さんがなにかいう必要はなかつた。ぼくたちはたがいに、父さんがどんな人か知っていた。

その晩と次の日、ぼくはコンピュータの電源をわざと入れなかつた。ぼくの幽霊がなにをいうかわかっていたから。二日後やつはまだおこつていた。電源を入れて画面が明るくなつたとたん、長ながと怒りのことばがとぎれることなくあらわれた。

「バカバカバカバカバカ……」

「ごめん」と入力しようとしたけれど、打たせてくれない。同じことばが画面からあふれ、えんえんとつづいた。それから空っぽの画面になつた。(A)、すっかり不機嫌になつたぼくの幽霊が、コンピュータにも同じことをするように説得してみたかった。

ぼくは次の日も、朝日のあたるまぶしい早朝のテニスコートで、なんとか相手をつかまえようとしたけれど、彼はぼくと練習することをはつきり拒否して、ネットを越えて打つたどの球もかえつてこなかつた。ただバウンドして、ころがるだけだった。

「おーい！」ぼくは空中にむかつてきんだ。「コーチしてくれよ！ そんなにおこるなよ！」

しかし、彼はものすごくおこつていた。すごい雷のときにちくちく感じる電気のように、まわりの空気の中に怒りがあるのを感じた。幽霊がいるというだけでもこわいののに、このたえまないはげしい怒りには、なにかぎよつとする以上のものがあつた。そしてはじめて、ぼくはそれがだれなのかいぶかしく思いはじめた——または、だれだったのかということ。

ぼくはその晩、母さんにきいた。

「ぼくたちの前はだれがここに住んでいたの？」
「フェロルドさんっていう、すてきな（X）よ。フロリダにおひっこしなされたの。幸せな家族がひっこしてきてくれてうれしい、って
おっしゃってたわ。」

母さんは電子レンジのタイマーをセットしていたが、急にぼくの目を見た。

「ここで幸せ、トビー？」

「うーん。」ぼくはいった。「うう、そうだね。」

「元気そうね。健康的。それに前より笑うようになった。」

「そう？」

「そうよ。」母さんは、ひよいとぼくをだきしめた。「②あの人ね、ああしかできないのよ、わかるでしょ。たぶんだれにも変えられないわ。」

「わかってるよ。」

ぼくも母さんをちよつとだけだきしめて、それから考えた。父さんのこと？ それとも幽霊のこと？

その週末、自転車にのって、芝刈り機を修繕している。バターソンさんに会いに行つた。彼は自分の家の芝生を刈るのが好きなのだ。ぼくに手をふつてくれて、ぼくは近づいていった。それから、ぼくは頭の中にあることをそのままいった。バターソンさんにならいうる。

「バターソンさん。ぼくの家はだれか、すごく（Y）人が住んでいたことがありますか？」

彼は手を休めて、口を半分あけてぼくをじつと見つめた。それからちよつと間をおいて「なぜだい？」といった。

「ちよつと——気になったんで。」

バターソンさんは芝刈り機によりかかると、毛のうすい頭にのせたキャップをかぶりなおした。その元気そうな顔の中の目は、ぼくにむかつてまっすぐまじめにむけられていた。

「さてさて」彼はいった。「あんまりいい話じゃないぞ、でもきつと知りたいんだらうな。」

「お願いします。」

バターソンさんは話しはじめた。

「四十年くらい前のことだがな、私が子どものころだ。きみの家に住んでいた家族に、私より年上の男の子がいたんだ。十六歳くらいだったと思うがね。それからもつと年下の女の子と、もの静かでやさしい母親がいた。だが父親は恐ろしい人だった。第二次世界大戦のころ、海兵隊にいた人で、（B）そのころの体験がいつまでもここにひっかかっていたんだらう。家をまるで軍の牢獄みたいにしていたよ。子どもだらうが母親だらうがみんな、彼の3クチブエひとつですぐさま集合しなければならなかったし、万が一おこらしてもしたら、ひどかった。4ボウリョク的な男だった。」

過去を思い出すように、少し間をおいてから、バターソンさんは頭をふった。

「男の子は、母親に似てやさしかったけれど、父親のかんしゃくをゆずり受けていた。ある晩大げんかになった——父親は飲んでいたんだと思う、女の子にひどく腹を立てて、顔をぶったんだ。男の子は怒り狂った——父親を殺したかったんじゃないかと思うがね——小さい妹の手をつかむと、おこったまま家から走り出て、狂ったように、父親の車を発進させた。そして、木にぶつけて彼も小さい女の子も、ふたりとも死んでしまったんだよ。」

まるで、彼がぼくをひいたみたいに、ぼくはちぢみあがった。ぼくの心のおくで、キーンと音がするように、ぼくの幽霊の、痛みやこわさ、そして終わることのない、決しておさまらない怒りを感じた。

「その父親は、次の日にいなくなった。消えてしまったんだ。彼になにがおきたのか、だれひとりつきとめられなかった。かわいそうなフェロルドの奥さんはその家に住みつづけたけれど、それからまるで影のようだった。」

「その子、テニスはした？」

「その子のためにあのコートをつくったんだよ。」バターソンさんはいった。「ジュニアの国内チャンピオンになるところだったのさ。父親は、まるで競走馬にむちうつように彼をしごいたものだった。」

「その子の名前は？」

「ジミー。」バターソンさんはいった。

ぼくたちのテニスチームは地方大会を勝ちぬき、ぼくは同じ年齢層で対戦するシングルスで勝った。それから夏休みがきた。父さんは、ぼくをテニスカンプにいかせたがっていたから、ぼくがなぜ家からはなれたがらないのか理解できなかった。それに、③なぜぼくが父さんと練習しないで、かわりに学校のコートで他の子たちとプレーするために出かけていくのかもわからないようだった。父さんといっしょに家のコートに足をふみいれるときはいつも、幽霊からあふれてくる怒りがとてつもなく強くうねってるんだ、なんて父さんに説明できない。

ぼくはもう耐えられなかった。狂いそうだった。このごろぼくが感じるのは、怒りだけだ。もうコーチはいない。父さんが勝って、ぼくが負けたあのテニスの試合が、ジミーを永遠に、彼自身を死に追いやった強烈な怒りの中に、とじこめてしまったらしかった。

しばらくして、ぼくの父さんとバターソンさんは、ぼくがどうしても逃げられないことを計画した。うちのコートで、ご近所対抗テニス試合をするというのだ。年齢や男女の区別はなし、みんなだれとでも対戦する勝ちぬき試合だ。これ以上、ぼくの目に見えないコーチを、とても正気とは思えない怒りのふちに追いやってしまうことになったらと思うと恐ろしくて、試合にはどうしても勝たなければならなかった。気がつくともぼくは、ついに、シングルスの決勝で父さんと対戦することになっていた。

ネットの両側に、たがいにむかいあって立ち、たくさんの人たちが、フェンスの外側にならべられたいすにすわって見ていた。悲しそうに

している母さんが見えた。父さんはにやりとすると、手を打った。

「よし、ぼうず。」彼は声をかけた。「おまえがどんなにすごいやつなのか、みてやろうじゃないか！」

それは長くて、すさまじい、ぞっとするようなゲームだった。父さんの、息子を負かしたいという熱い追い詰められたような願いは、はずかしくなるくらいにだれの目にもはつきりと見てとれた。【 a 】、ぼく以外だれも感じる事ができないけど、父さんに対するはげしい怒りはコートじゅうに満ち満ちていた。

父さんとぼくは、おたがいにとんでもなくよく戦った。ジミーがずっと、ぼくをはげしく勝利にかりたてているのをぼくは感じていた。

父さんが第一セットを取り、ぼくが第二セットを取った。父さんが第三を勝ち、ぼくが第四を勝った。すでに父さんの息は重くなり、つかれていた。ついに最終セットでゲームカウントは五対四、ぼくのサーブの番だった。

ぼくはラインにせずむ速いサーブを打った。父さんは、ボールめがけて突進したけど5トドかなかった。【 b 】、ファイフティーン・ラブ。ぼくはふたたびサーブして、父さんは強く打ちかえしたがネットになった。【 c 】、サーティ・ラブ。父さんの顔に、絶対に負けたくないというあのゆがんだ表情がうかんだ。でも、ぼくはもう気にしなかった。頭の中でジミーが「ヤッチマエヤッチマエ」と、かなきり声でさけんでいる。④、ぼくの望みはただ勝つことだった。

ぼくは立てつづけに二本、【 d 】、リターンできつこない最高のサーブをし、その二本目を取りそこなって、父さんはコートにうつぶせにすべった。そしてぼくは試合に勝った。

拍手は聞こえなかった。ぼくの心の中でうなっていた怒りは、とても意地のわるい喜びのさけび声に変わっていた。ぼくの幽霊が、父さんが負けてくやしくてたまらない表情を見せるのを、今か今かと待っていた。彼は死んでも恨みに耐えてこの四十年のあいだにふくらんだ、怒りのすべてをこめて、この戦いの勝利の瞬間を待ちのぞんでいたのだ。

【 b 】、幽霊が期待したようにはならなかった。それどころか、父さんは起きあがると、ちやうど自分が勝ったときのように、ラケットをほうり投げて走り、ネットをとびこえてきた。そして腕をひろげてぼくをだき、それからぼくの肩を両手でつかんでおしもどした。まるでクリスマスツリーを見る小さな子どものように、うれしくてたまらないというようすで、にこにこぼくを見た。ぼくはほんの一瞬、父さんは、頭のどこかがぼくよりずっと小さな子どもみたいだと思った。父さんの喜びようだったらなかった。彼はうれしそうにいった。

「トビー、おまえ、すごいな！　ほんとうにうれしいよ！」

それから父さんはもういちどぼくをだきしめ、ほおにキスをした。⑤、ぼくはなにもいえなかった。フェンスのむこう側で、母さんがほほえんでいた。

そしてしだいに、すべての怒りや恨みや憎しみが、テニスコートの家のまわりの空気から消えていくのを感じた。そのかわりに、いたるところに思いがけない幸せと、平和があった。青空に映えるカエデの木に、そよ風が鳴っていた。

ぼくはその晩、寝る前にコンピュータのスイッチを入れ、打った。

「もうだいじょうぶだよ、ジミー。もうだいじょうぶ。やすらかにねむってください。」すると一瞬、画面にことばがあらわれた。

「そうするよ。おやすみ、トビー。テニスがんばれ。⑥さようなら。」

それから画面はくらくらなくなった。彼はいつてしまったのだ。

(スーザン・クーパー著、角野栄子・市河紀子訳「幽霊の話」より 一部改めたところがある)

(注1) セット：テニスの試合は、四ポイント先取した者が一ゲームを取り、六ゲームを先取した者が一セットを取る。

(注2) ダブルス：二人対二人で戦うテニスの試合。

(注3) フルセット：勝負が最終セットまでもちこまれること。

(注4) アドレナリン：神経を興奮させる働きのある体内物質。

(注5) ウインブルドン：権威あるテニス大会の通称。全英テニス選手権大会のこと。

(注6) おやじ：トビーの父親が自分のことを「おやじ」と言っている。

(注7) シングルス：一人対一人で戦うテニスの試合。

(注8) ファイティーン・ラブ：一ポイント対0ポイント。

(注9) サーティー・ラブ：二ポイント対0ポイント。

(注10) リターン：サーブを打ち返すこと。

(一) 波線部1～5のカタカナを漢字に直しなさい。

- 1 シュクダイ
- 2 シュクフク
- 3 クチブエ
- 4 ポウリヨク
- 5 トド (かなかった)

(二) (A)・(B)に入る最も適切な言葉をそれぞれ次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア まるで イ 決して ウ おそらく エ どうして

(三) 【a】・【b】に入る最も適切な言葉をそれぞれ次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア たとえば イ だが ウ それに エ ところで

(四) 傍線部①「とがめるようにぼくにいった」とあるが、母は、ぼくのどのようなことをとがめたのか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア スタ―選手になったのなら、父親に報告すべきだということ。
イ テニス好きの父親に反抗して、勉強ばかりしているということ。
ウ テニスがうまくなるために、父親を頼らなかつたということ。
エ 父親を無視し、パターソンさんとばかり話しているということ。

(五) (X)に入る最も適切な言葉を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア おばあちやま イ おじいちやま ウ ご家族 エ ご夫婦

(六) 傍線部②「あの人はね、ああしかできないのよ、わかるでしょ」とあるが、どの人が、どのようにしかできないのか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 幽霊が、父親からゆずり受けたかんしゃくが死後もなおらず、自分の気持ちを表現するのに怒ることしかできない。
イ トビーの父親が、好きなテニスで勝つためには、息子であろうと情け容赦なく汚い手を使うことしかできない。
ウ トビーの父親が、息子の気持ちにそって行動するのではなく、自分がよいと思うことを押しつけることしかできない。
エ 幽霊が、たえまないはげしい怒りを表現する手段としては、結局テニスのコーチを拒否することしかできない。

(七) (Y) に入る最も適切な言葉を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア テニスのうまい イ すてきな ウ 勝つことの好きな エ おこってる

(八) 傍線部③「なぜぼくが父さんと練習しないで、かわりに学校のコートで他の子たちとプレーするために出かけていくのかもわからないようだった」とあるが、どういうことなのか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 父親は気づいていないが、この前の試合で父親には愛想が尽き、いっしょにテニスをすることを避けているということ。

イ 学校のテニスチームは地方大会を勝ちぬき全国大会をめざしていて、親には内緒で秘密の特訓をしているということ。

ウ ご近所対抗のテニスの試合で優勝するために、父親や近所の人に知られないように練習したかったということ。

エ 父親に対する幽霊の怒りが異常に強くなっているので、父親とは家のテニスコートに入りたくないということ。

(九) 傍線部④「ぼくの望みはただ勝つことだった」とあるが、それはなぜなのか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 父親の勝ちにこだわる生き方を打ち砕いてやりたかった。

イ 幽霊の「ヤツチマエ」という言葉に完全に支配されていた。

ウ 幽霊をこれ以上怒らせてしまうことがとても恐かった。

エ ジュニアの国内チャンピオンをめざす気持ちになつていたので。

(十) 傍線部⑤「ぼくはなにもいえなかった」とあるが、「ぼく」が「なにもいえなかった」のはなぜか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 今まで苦手に思っていた父親の態度はすべて、自分をテニスの名選手にするために、母親と二人で考えた演技だったのだと気づいて感激したので。

イ 息子を打ち負かすために必死だった父親が、負けるやいなや自分の信念を曲げて、心にもない賞賛の言葉を口にしたたり愛情を表現したりするのに驚いてしまった。

ウ 四十年の間にふくらんだ幽霊の正気とは思えない怒りが父親を狂わせ、小さな子どものようにしてしまったことがあまりにもショックだったので。

エ ひとりよがりが高圧的にふるまうことが多く、苦手に思い敬遠していた父親が、あまりにも率直に賞賛の言葉を口にしたたり愛情を表現したりするのにとまどってしまった。

(十一) 傍線部⑥「さようなら」とあるが、幽霊はなぜトビーのもとを去っていったのか。次のア～エの中から最も適切なものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア トビーの父親が息子に負けた時の態度を見て、長年の恨みや怒りが解けたので。
- イ トビーの父親が息子に負けてもくやしそうな表情を見せず面白くなかったため。
- ウ トビーをどんなにきたえても、国内チャンピオンにはなれないと思ったので。
- エ トビーに自分が会得した技術はすべて伝えて、思い残すことはもうないので。

③ 次の(一)～(四)の文章の内容から確実に正しいと言えることを、後に続くア～ウの中から、記号であるだけ選びなさい。一つも正しいものが無い場合は、「×」と答えなさい。

(一) 十八世紀の生物分類学者リンネは、形がどれだけ似ているかを基準に生物を分類しました。圧倒的に似ているもの同士を同じ「種」として、生物全体の分類を試みました。基本的な体のつくりや性質がほとんど共通である種のグループを「属」としてひとまとめにし、いくつもの「属」をまとめて「科」、「科」をまとめて「目」、その後「亜綱」、「綱」、「門」、「界」とさらに大きなグループを作っていきます。ハナガサミドリイシというサンゴは、正式には「動物界・刺胞動物門・花虫綱・六放サンゴ亜綱・イシサンゴ目・ミドリイシ科・ミドリイシ属のハナガサミドリイシという種」ということになります。

ア 刺胞動物は、ハナガサミドリイシの一種である。

イ ひとつの「亜綱」のほうが、ひとつの「綱」よりもたくさん生物が属している。

ウ 「科」の名前と「属」の名前が同じになる場合もある。

(二) 太陽が月によって隠れてしまう現象を日食といいます。実際には月よりも太陽の方がずっと大きいのですが、月の方がはるかに地球の近くにあるので、地球から見た時の大きさは、ほぼ同じくらいになります。月が太陽を全部隠せば皆既日食、一部だけ隠せば部分日食、月の方が小さく見えて、太陽がリング状にはみ出せば金環日食と呼ばれます。皆既日食のときは、太陽から地球にとどく日光を月がさえぎるかたちになるので、辺りは暗くなります。昔の人はこの現象をとておそれました。現在月は一年に四センチくらいずつ地球から遠ざかっているのです、遠い未来では皆既日食は見られなくなってしまうのです。

ア 月の方が太陽よりも大きく見えるときは、金環日食は観測できない。

イ 皆既日食のとき辺りが暗くなるのは、日光が月を照らしてできる影に、観測地点が入るからだ。

ウ 遠い未来に皆既日食が見られなくなるのは、今より月が大きく見えるようになるからだ。

(三) 日本で最も大きな湖は琵琶湖ですが、二番目に大きな湖は、茨城県の霞ヶ浦です。茨城県の三分の一以上の面積を占めています。降った雨が流れ込む地域を「流域」と言いますが、霞ヶ浦の流域は24の市町村にまたがり、約94万人が暮らしています。このため、湖の10倍の面積の流域を持っていることになり、霞ヶ浦は汚れた水が集まりやすい湖と言われています。昭和に入ってから行われた水害を防ぐための工事の影響で、海水が逆流し、塩害が出るようになりました。このため逆流を防ぐ水門が設けられ、塩分濃度が高い汽水湖だった霞ヶ浦は、現在は淡水湖となっています。

ア 琵琶湖が県に占める面積の割合は、霞ヶ浦以上である。

イ たくさんの人が住んでいる地域から水が流れ込んでくるので、霞ヶ浦の水は汚れがちである。

ウ 人間による工事の結果、霞ヶ浦は汽水湖から淡水湖になった。

(四) 多くの人から少しずつお金を集め続けておいて、そのメンバーの誰かが災害や事故で損害を受けたとき、その損害を補う費用を、集めたお金から払ってあげる仕組みを「保険」と言います。現在世界中にたくさんの保険会社がありますが、大地震など大規模な災害が起こると、保険会社はたくさんの人によってお金を支払わなければいけなくなり、このときお金を払いきれなくなり、加入者が困ることのないよう、「保険会社が入る保険」というのも作られています。この仕組みを「再保険」と呼びます。

ア お金を払っていない人にも、災害が起こった場合は、保険会社は損害を補ってあげないといけない。

イ 大災害は、保険会社にとってはたくさんお金を払う機会になる。

ウ 保険会社がお金を払えなくなるのが心配な人は、再保険に加入すればよい。

【問題は以上で終わります】

①

(十一)	(七)	(五)	(三)	(二)	
				4	1
	(八)	(六)	(三)	5	2
	(九)		(四)	3	
	(十)				

②

(八)	(四)	(三)	(二)	
		A	4	1
(九)	(五)	B	5	2
(十)	(六)	(三)	3	
		a		
(十一)	(七)	b		
			(かなかった)	

③

(三)	(二)
(四)	(二)

得点	
受験番号	

<p>③ (一) ウ (二) アイ (三) イウ (四) イ</p> <p>⑤ × 4</p>	<p>(十一) ア</p> <p>(十) エ</p> <p>(九) ウ</p> <p>(八) エ</p> <p>(七) エ</p> <p>(六) ウ</p> <p>(五) ア</p> <p>(四) ウ</p> <p>(三) 【a】ウ 【b】イ</p> <p>(二) (A)ア (B)ウ</p> <p>(一) 1 宿題 2 祝福 3 口笛 4 暴力 5 届</p> <p>② (一) 1 宿題 2 祝福 3 口笛 4 暴力 5 届</p> <p>(二) × 2</p> <p>(三) × 2</p> <p>(四) × 5</p>	<p>(十一) アキ</p> <p>(十) エ</p> <p>(九) ウ</p> <p>(八) エ</p> <p>(七) エ</p> <p>(六) エ</p> <p>(五) エ</p> <p>(四) ウ</p> <p>(三) ア</p> <p>(二) イ</p> <p>① (一) 1 書評 2 方言 3 洗練 4 手順 5 時分</p> <p>(二) × 5</p> <p>(三) × 2</p> <p>(四) × 2</p> <p>(五) × 2</p> <p>(六) × 2</p> <p>(七) × 2</p> <p>(八) × 2</p> <p>(九) × 2</p> <p>(十) × 2</p> <p>(十一) × 2</p>
---	---	--